

相談ネットワーク通信

2013. 6. 21(金)

No.78

子育て・教育なんでも相談ネットワーク 岡山市北区表町1-4-64上之町ビル3F

TEL・FAX 086-226-0110 Eメール:soudan-net@vivid.ocn.ne.jp

バイクをせがまれた ある母親よりの相談から

相談ネットワーク 正保 宏文

今春より晴れて自由人となった。退職するまでずっと退職後5年間は、完全に自由人として生きたいと思ってきた。しかし、難波一夫先生のお誘いで、断ることはできず、ネットワークの末席に仲間入りさせてもらうことになった。喜んでよいのやら悲しんでよいのやら複雑な気持である。そんな5月のある日、見知らぬ女性から電話をいただいた。その女性は、友人から小生宅の電話番号を聞いたということであった。母子家庭のその女性は、高校2年生の息子に、バイクを買って欲しいと

せがまれていた。どうしたらよいだろうかという相談だった。私の脳裏によぎったのは、私の最後の職場である水工の歴史の一幕であった。51年前、水工が創立された当初は、バイクの免許の取得が許されており、多い年には、交通違反等で300人近い数の生徒が特別指導を受けたいた。交通事故でなくなった生徒の総数も開校以来10名を超えていた。最愛の息子を事故で失ってしまった遺族の中には、息子の無念を想い、二度と同じような事故を繰り返して欲しくないという切実な思いか

代わって、在校生たちがフェニックスのように大空に羽ばたいて欲しいという願いがこめられていく。こうしたことを受けて、生徒の命を犠牲にしないために、バイクの「三ナイ運動」が始まった。私がかって担任した生徒の中には、無断で免許を取得し、事故で下半身不随になったものがいた。事故に遭ってからでは遅すぎる。私は躊躇することなく、電話の女性に、「息子さんにバイクを買うのはよくない」と進言した。そして、「息子さんが高校を卒業した

ら、校内にフェニックスを植樹された方がいる。それには、

志半ばで天国に旅立った息子に

オーストラリア訪問の報告 4

オーストラリアの学校で 授業をしながら考えたこと ④

岡山理科大学科学ボランティアセンター
コーディネーター

武田 芳 紀

私と私の妻がステイさせていただいたホストのフエイさん(夫婦)のことを紹介してみましよう。フエイさんは、そのお名前(Gihey)からも伺われるように、オーストラリアの生まれではありません。彼女は、フィリピンの生まれで、お父さんは、戦時中にフィリピンを支配していた日本軍の軍属をされていたという事です。その時にお父さんが使われていたアルマイトの弁当箱(昔、日本をよく見かけたもの)をお父さんの形見でとっておられて、それを見せながらお父さんの話をしてくれましたが、お父さんは彼女が日本語を学習する

と言った時にはすぐ反対されたとのことでした。おそらく日本軍のもとで働いたことではない思い出も多かったのでしょう。その後、彼女は看護士の資格を取りたいという事で、イギリスに留学します。そして、そこで、生涯の伴侶となるご主人のスタンリーと出会います。結婚した二人は、オーストラリアのアデレードにやってきました。ご主人のスタンリーはスコットランドの出身と

は家計の収入を補うために、朝早くから起きて、フレンチドッグを揚げて売るアルバイトもやっていたということでした。この三菱自動車の工場の閉鎖は、日本でも水島にある三菱自動車の工場が景気が悪くなったのと同じ頃だと思っので、工場閉鎖が社会に及ぼす影響は国境をとわず大きなものがあるようです。でも、スタンリーは定年が近かったので渡りに船と辞めてしまったのかもしれない。彼はその後、フエイさんと一緒に日本にいられたのです。が、いろんな形で日本と関わりがあったのだとその時、あらためて思った次第です。

さて、フエイさんは、お母さんが健在で、年に一度は里帰りもしているようでした。また、兄妹が多く、アデレードに来ていた方もあるとのことでした。自分の娘とそのご主人や、フエイさんの兄妹たちと一緒に私たちが食事に誘ってくれたのですが、全部で20人近くにもなっていたので驚きました。驚いたと言えば、私たちも含め、年間に何十人という友人や知り合いをホームステイで受け入れておられるとのことでした。私たちが寝泊まりした部屋のクローゼットを見ると、そのステイした人たちのオミヤゲがぎっしりつまっていました。こ

お便り

しており
ます。連
絡が遅く
なりすみ
ません。

(倉敷 R子)

れをみてもわかるように、彼女はとても社交的、外交的で、日本にいる時にも多数の友人や知り合いができたようです。日本には2回、A.L.Tとして来られて、2回目の時には、そのA.L.Tを指導すっきり春めいてまいりました。いつもネットワーク通信送って頂きありがとうございます。息子も立ち直り看護学校を経て今、看護師として働いております。その節にも親身に相談にのって頂き感謝

するような立場にもいいことがあるので、ひよっとしたら、この通信の読者の中にも知っておられる方もあるかもしれません。

ところで、フェイさん、現地の日本語の先生たちの中でも目立つヘルパー取得し、それから4年かかりました。本人もよく頑張ったと思います。思い悩んだ親の気持ちです。後には体につけ、よい人生を歩んでいければと思います。

今後のご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。

存在で私が行ったベレア小の日本語の先生も彼女のことをよく知っているようでした。また、彼女は日本語の教師として務めるかたわら、現地ではマイノリティである、フィリッピン人の子ども達に、フィリッピン語をボランティアで教えておられました。それは、ある学校を借りて、毎週金曜日を開かれていました。私も見学をかねてついていきました。子ども達が保護者に伴われてやってきました。また、そのフリースクール?を支えているボランティアも、です。

ところで、その日は、彼女は、折り紙でランタン、つまりちよ

うちんの折り方を教えていました。その日、子どもたちへのお話の最初で彼女は「今日は、ジャパンデーです。それで、これを折りました」と言われました。実は私はうかつにも、その日が8月6日であることに気づいていませんでした。これは、日本の原爆記念日だったんですね。そこにおられたある日本人のボランティアの女性の方は「養子縁組み」でフィリッピンの子どもを育てておられるとのことでしたが、「私はカナダにもいたのですが、カナダでも、やはり8月6日に、ジャパンデーというのがあるって、その日は鎮魂の行事を行って

いるんですよ」と教えてくれました。つまり、海外では、8月6日が「ジャパンデー」ということで定着しているのです。日本でも「被爆体験を風化させてはならない」とよく言われますが、海外でこうして心ある人々が「ジャパンデー」として、原爆の被爆者への追悼をされているというのは、もっと知られてよいことでしょう。逆に私はフェイさんのお宅にホームステイしたことで、「ジャパンデー」を知り得たことに感謝するとともに、これまでそれを知らずにきたことへの申し訳ない気持ちひろがったのを覚えていきます。(たけだ よしき)

ふぶき君との格闘

相談ネットワーク 石井 信行

ふぶき君が、ミドリガメを持ってきた。昆虫飼育箱に、水を入れて、小石も三つ入れてある。ふたを開けては、生臭い水に手を突っ込んでカメをつかみ出して、頭をなでている。

「どこで捕まえたん？」

「川。」

「どうやって捕ったん？」

「こうやってとった。」

と、両手のひらを包み込むようにして教えてくれた。

先週は、トカゲを捕まえてきた。生き物大好きな二年生だ。



「さあ、勉強するから」と、逃げようとするのを捕まえないから、言う

と、

「なぞるやつがええ。算数はいやじゃ。」というので、

「ぼくの なまえは ふぶきと いうなまえです。」と書いて、わたし、

「読んでみて。」というので、「ぼくの 名前は、ふぶきと」まで読むと、「い・う・と」と、詰まっていた。「ゆうと」と、読み替えて全部読み終わった。

ていねいな字で、なぞり、こんなのかんたんじゃあという表情で、鼻の下を手でこする。

「川で かめを つかまえました。」と書いて渡すと、

「川で、ふくおきたまま

とりました。

けんしろう ふぶきとで

とりました。

へびに かまれました。

カットバンお はりました。

しよどくもしました。」

と、一気に書いた。

けんしろう君は、ひまわり学級を紹介してくれた同級生で、いつもくっついていっている同じ団地の



けんか友だち。

私が、次の文を書いて渡そうとすると、

「よし、すんだ。」と、席を立ったふぶき君は、おやつをとり、ひまわり学級のスタッフの所に行く。

「おやつちょうだい。」

「おやつは、みんなで食べることになつていまして。」と言

われても、もう、手を出して、パンをつかみかけている。口に

ほおばりながら、そのまま部屋の外に走りだした。後を追いか

けて、ひっ捕まえるまでに十分はかかる。

まだ、ひまわり学級に来だしてから、三回目だし、いすに座

って十分から十五分が限界の所

かなあと、思いつつ、おんぶして部屋まで帰り、「勉強がすんだら何して遊ぶかなあ。」と聞くと、

「あの、布で持ち上げるやつ。」

と、言う。写真は、その「布で持ち上げるやつ」だ。

(いしい のぶゆき)

「ひまわり学級」を支えるスタッフ

岡山生活と健康を守る会

関藤 香代子

岡山生活と健康を守る会のひまわり学級が3年目に入りました。

スタッフの林さんは、定年退職をして3年半になります。病院

のソーシャルワーカーの仕事をしていたので、様々な生活問題に関わりましたが、病院内での対応が中心で、地域・家庭へは手つかず。特に生活保護家庭の子ども達のこと、気になっていたそうです。

入院中の祖母の世話をひきこもりがちな20

歳すぎの青年がして、病院に来なくなつたので家に行ってみると自死していたということもあつたそうです。

経済的な苦しさをため、生活環境・学力・生き方等もしばられていきます。貧しさを断ち切る学力を突破口にと無料塾が出来たことは、林さんもとて嬉しかったそうです。

ひまわり学級ではお母さん方の話を聞いたり、塾に何が必要か考

えたり、特に、若い人にも参加を呼び掛けたりしてくれています。

1年前から参加している檜原さんは、「自分の子どもが2歳の時、髄膜炎になり耳が聞こえなくなりました。聾学校の幼稚部があることを知り、わたしは4年間子どもと毎日学校に通いました。その日学校で子どもが習った事を家に帰ると毎日復習しました。聾学校の先生にはコミュニケーションが大切だと教えてもらいました。今そ

の子は35歳です。感受性豊かに成長しました。親としてとても嬉しいことです。教育や先生や仲間との出会いの素晴らしさを実感している時、林さんから声をかけられて、ひまわり学級に参加するようになりました。いつか、私の子どもにしてもらった事を恩返ししたいと思っていたのでとても嬉しいです。ひまわり学級にも耳の聞こえにくい子どもがいて私の経験が生かされます」と話してくれま

した。

障がいがあるなしに関わらず子どもたちは成長します。学ぶ・わかることの楽しさを実感した子どもたちが家族を変えるのです。子どもたちの変化は決して早くも大きくもありませんが、子どもを見る目が変わっていくお母さんとともに一人ひとりの小さな成長を喜び合っています。ひまわり学級に来る子ども達は、社会の矛盾を小さな肩に背負っています。子ども達が安心して教育が受けられるよう、憲法が守られる社会にしたいです。

(せきとう かよこ)



青春断想 6

軍事教練

難波一夫

戦時中、「軍事教練」の時間には、それぞれに銃を与えられていました。上級生は38年式(1900年代中期に日本軍が開発・採用した小銃)、下級生は村田銃(1880年に日本軍が採用した国産小銃)。

それを担いで授業を受けました。一年に一回「査閲」というのがあって、当時の岡山にあった48部隊から、「エライ人」が検閲にきます。そして「点数をつけて、評価するのです。優、良、可というように。つまりそれが当時の学校評価だったのです。戦争に協力しているかどうか、軍国主義教育が徹底されているかどうかの…。

私たちの中学校は、いつも「概ね可」というレッテルを貼られていたので、教官は相当厳しく指導していました。

捧げ銃(つつ)から始まって分列行進、匍匐(ほふく)前進…、最後は突撃。そして麦藁で捲えた「鬼畜米英」の人形を突き刺すのです。

いちばんイヤだったことの一つは、匍匐前進で水溜まりがあるのが、犬の糞があるのが前進しなければならぬことでした。わが級友たちは、他校の生徒たちと違って、それを避けて通るので、一糸乱れぬ訓練とはいきません。評価はいつも最低でした。

それに比べて、他校の生徒は、断然評価が高く、陸軍士官学校や海軍兵学校へもたくさん入学していました。それだけに厳しい注文をつけられたのでしよう。

分列行進の時には歌を歌いながら、歩きました。徹夜で行進したこともありました。当然、眠たくなります。その時、元気をだせと歌わされた歌のなかに鮮明に思い出せるのは「ナチスの歌」とか「ファシズムの歌」です。

♪ ディファネホ デイライ
フエンミット ゲシユロツ
セン エサアマルシイルト
ミトルヒム ゲツセント

シイルト カムラーデン
デイロントフロント レア
クシヨル エルシヨツセン
♪…

♪ 用意はできたぞ みんな
出掛けよう 正義に仇する
敵をほろぼそう 今こそ時
だぞ理想に燃えつつ… フ
アシズムは我らの自由の天
地 ♪…

歌の意味は分かりませんでした。

私たちの制服は、カーキ色で国防色といいました。(今、「国防色」と似通った国防軍を創設すると言っている政党があります)。先生方もすべて国防色の「国民服」と戦闘帽でした。陸軍の軍人が数人配属され、教練の授業を担当していました。こうして、骨の髄まで軍国主義化されていくのです。

(なんば かずお)



子どもの本

『もしも、ぼくが トラになったら』

ディーター・マイヤー／文、フランツィ
カ・ブルクハルト／絵、那須田淳／訳
光村教育図書 1400円(税抜き本体価格)
幼児～

小さなねずみの男の子オスカーは、タカやネコに追いかけられ、好物のりんじんやチーズが食べられま



なりたいたと、根っこの魔法使いブルツルに、トラにしてもらうのですが、どうにも思うようにはいかないものです。

グラフィックデザイナーとしても活躍するスイスのブルクハルトが、ユーモアたっぷりに描きました。トラになったオスカーのしっぽにご注目!

(1面のつづき)
ら、バイクを買ってあげると約束してください」と付け加えた。さらに、「お母さんにとって、あなたの命はかけがえのないものなんだ」ということも息子さんに伝えるように言った。でも、息子の方は母親に対し、「周りの友達みんなバイクを持っている」と主張。その声に押されて、女性はバ

イクを買う一歩手前で、私の家へ電話してきたのだった。電話を切る前、その女性の声は、心なしか明るくなっていた。バイクを今すぐには買わない方向で、息子を説得してみようというのだ。
「お母さん頑張れ」と私は心の中で念じて、受話器を置いた。
(しようほ ひろふみ)

あ ベノミクスは、大企業が栄えて国が破れるエコノミックスです。消費税の大増税や社会保障の大改悪、投機とバブルの異常な金融緩和と大型開発によっては、庶民の生活は楽になることは決してありません。
じ 分のいうことを従順に聞く日銀総裁を選び、政府の御用金融機関として、投機マネーで一部の金持ちに荒稼ぎをさせています。昨日も今日も、株の乱高下。さらに、多くのグローバル企業の社長と海外投機のために、諸外国を訪問しています。これは、日本の産業を一層空洞化させることになりません。あの原子力発電の技術まで輸出しようとしているではありませんか。福島原発のなんの反省もなく、「あとは野となれ、山となれ」と、儲けのためならなんでもしようとしているのですね。
さ らに消費税をあげ、その上、生活保護、医療、介護、年金などを大改悪しようとしていますね。また、自衛隊を国防軍に変えて、海外に派兵できるようにしようとして、そのために憲法を変え、民主主義を否定して、日本をあの侵略戦争ができる国にもう一度引き戻そうとしているのです。本当に恐ろしいことです。
い ま、私たちはなにをすればいいのでしょうか。アベノミクスのそもそものは「税と社会保障の一体改革」という自・公・民の「三党合意」のうえに成り立っていることを忘れてはいけません。しっかりと瞳をこらし、目を見ひらき、腰を据えて、私たちと子どもの生命と暮らしを守るために、逆流に立ちむかっていきましょう。
(N)

